

自然を前にしたカミュ

稲田 晴年

【要旨】

自我と自然との関係には二つのタイプがある。最初のタイプでは、自我と自然が向き合っている。

第二のタイプでは、自我は自然に飲み込まれる。第三のタイプでは、自我が自然をおおいつくす。人間に生きる意欲を与えるのは第三のタイプである。カミュはこのタイプの関係を再び生きて、生のエネルギーを取り戻すために、チパザを再訪したのだ。カミュが十全に生きるためには、自然の前に位置を占めなければならない。



【プロフィール】稲田晴年（いなだ・はるとし）：静岡県立大学国際関係学部名誉教授。Société des Études camusiennes の日本支部会員。

オリヴィエ・トッド著『アルベール・カミュ〈ある一生〉』の共訳者。「『最初の人間』小説か自伝か」などの論文をフランス語で *Études camusiennes* に発表。また *La Revue des lettres modernes* 誌 23 号に *«L'Homme révolté est-il antimoderne?»* を発表。国際シンポジウム発表：2010 年日本、獨協大学「カミュと俳句」、2013 年フランス、スリジューラール「芸術は創造を修正できるか——『反抗的人間』から『最初の人間』まで——」、2018 年フランス、アルケルスタン「『異邦人』の詩的文体について」。